

先人が残した思い

自然災害伝承碑



国土地理院では、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切にお伝えするとともに、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指し、ウェブ地図や地形図等への掲載を進めています。

ご担当される地域に該当する伝承碑がありましたら、ぜひお知らせください。

自然災害伝承碑とは

◆過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄(災害の様相や被害の状況など)が記載されている石碑やモニュメントです。

◆これら自然災害伝承碑は、当時の被災状況を伝えると同時に、被災場所に建てられていることが多く、こうした情報について地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待されます。



西日本豪雨(平成30年7月)での救助活動の様子(大阪府警察提供)



111年前(明治40年7月)に大雨による土砂災害がここで発生していたことが記載

平成30年7月豪雨で多くの犠牲者を出した地区では、100年以上前に起きた水害を伝える石碑がありました。しかし、「石碑があるのは知っていたが、関心を持って碑文を読んでいなかった。水害について深く考えたことはなかった」。(平成30年8月17日付け中国新聞より引用)という住民の声が聞かれるなど、これら自然災害伝承碑に遺された過去からの貴重なメッセージが十分に活かされているとは言えません。

問い合わせ先

国土地理院 中部地方測量部 自然災害伝承碑担当

電話:052-961-5646(直通) メール:gsi-bosai-05-cb@gxb.mlit.go.jp

ご登録頂きました自然災害伝承碑は

◆国土地理院のウェブ地図「地理院地図」などで発信させていただきます。



自然災害伝承碑のアイコンをクリックすると詳細な説明が表示されます。

概要	
碑名	伊勢湾台風最大潮位標
災異名	伊勢湾台風 (1959年9月26日)
災害種別	豪雨
建立年	1994
所在地	三重県四日市市富州原町 (水と緑のせせらぎ広場)
伝承内容	昭和34年(1959)9月26日夜、中心気圧929.5ヘクトパスカル、時に風速50メートルを超える伊勢湾台風が暴風勢力を及ぼした。台風通過が伊勢湾の満潮と重なったため、四日市は暴潮により富津地区を中心に115名の犠牲者となり、家屋の全半壊は3,695戸等の被害となった。この潮位標の高さは、当地での浸水位置を示している。

地理院地図
<https://maps.gsi.go.jp/>

ハザードマップでの発信



重ねるハザードマップ
<https://disaportal.gsi.go.jp/maps/>

地形図での情報発信



現在の登録状況

<公開数>

- 岐阜県: 49基
- 静岡県: 74基
- 愛知県: 75基
- 三重県: 79基

※令和5年5月18日時点

地域の防災意識向上のため、ご協力をお願いします。



自然災害伝承碑を地理院地図で見る

https://maps.gsi.go.jp/#/34.981628/137.537842/&base=pale&ls=pale%7Cdisaster_lore_all&disp=11&lcd=disaster_lore_all&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0&d=m